

**CASBEE-広島 2014年版**  
ノートルダム清心中・高等学校 講堂等建設工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-広島 2014年版  
■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>		-			<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-			<b>3.0</b>
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	0.30	3.0	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.30	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-			
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.4</b>	0.35	-	-			<b>2.4</b>
2.1 室温制御		<b>2.6</b>	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.60	3.0	-			
2 外皮性能		2.0	0.40	3.0	-			
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-			
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.1</b>	0.25	-	-			<b>3.1</b>
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度	講義室の設計照度は500Lxとしている	<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-			<b>3.0</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-			
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		1.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	建物全体として禁煙である。	5.0	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.1</b>	0.40	-	-			<b>3.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観		3.0	0.50	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画		3.0	0.50	-	-			
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	メンテナンス性に配慮した建築計画としている	4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.30	-	-			<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.4</b>	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管、排水管がB、消火管が「C」、「E」は不使用	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

<b>2.4 信頼性</b>			<b>3.2</b>	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	省エネ運転が可能な計画としている	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.8</b>	0.30	-	-	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>2.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり		3.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		2.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>4.5</b>
1	生物環境の保全と創出	既設緑地を保全するとともに、建物周囲を緑化する	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	既設建物及び周辺建物と調和するよう勾配屋根を基調とした外観	5.0	0.40	-	-	5.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>4.5</b>	0.30	-	-	<b>4.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	近隣住民に配慮し、敷地周囲に生垣や目隠しフェンスを設置する	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	既設緑地を保全するとともに、建物周囲を緑化する	4.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.9</b>
1	建物外皮の熱負荷抑制	建築の断熱により熱負荷を抑制	4.5	0.20	-	-	4.5
2	自然エネルギー利用		2.5	0.10	-	-	2.5
<b>3 設備システムの高効率化</b>		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) -	<b>4.4</b>	0.50	-	-	<b>4.4</b>
集合住宅以外の評価(3a.3b)		LED照明、全熱交換器の採用	4.4	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1	節水	擬音装置、節水形便器、自動水栓を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.1</b>	0.60	-	-	<b>3.1</b>
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	PS、EPSを設け設備ルートが内装材と輻輳しないよう配慮	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用	床材および壁紙の接着剤に☆☆☆☆の材料を採用	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LED照明、全熱交換器の採用	<b>3.3</b>	0.33	-	-	<b>3.3</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
2.1	大気汚染防止	講堂の空調設備は直膨式を採用し燃焼系熱源設備は採用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.3</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内通路を長くとり、駐車場までの滞留場所を敷地内で確保	4.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.60	-	-	
2	砂塵の抑制	外構はアスファルト舗装または植栽で覆う	5.0	0.20	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.20	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策がガイドラインの過半をみたしている。広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	